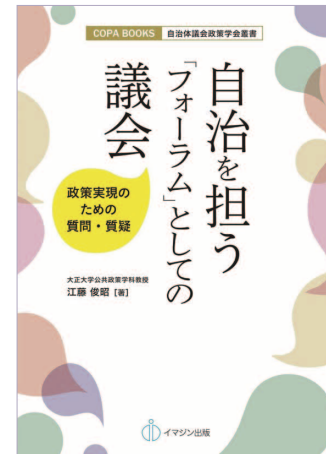


グラビア	地域を支える人 今村俊洋さん・広島県庄原市	1
発掘!地域の希望のタネ	〈さむかわ冬のひまわり〉 神奈川県寒川町	5
給食のじかん	〈鈴鹿のお茶うどん〉 三重県鈴鹿市 鈴鹿市職員労働組合現業評議会	6
書評	江藤俊昭 著『自治を担う「フォーラム」としての議会』菅原敏夫	8
焦点	子ども性暴力防止法(「日本版DBS」法)をめぐる 丸山敦裕	10

特集 やりがいと成長をうながす職場づくり

	若者は仕事に何を求めているのか	堀 有喜衣	18
	「やる気」の天井を破る職場づくり	太田 肇	28
	自治体組織におけるモチベーション・マネジメント —公務への意欲を支え、育んでいくために	田井浩人	35
	誰もが成長を実感できる、働きがいのある 職場をめざして—藤枝市人財育成センターの取り組み	北川雄一	43
	広島市における「若手職員の育成」および 「女性職員が活躍できるための環境づくり」について	広島市総務局 人事部人事課	49
	ボードゲーム「公務員ステップ」と自治研活動	丹羽野真也	54
あの時、 私の職場では	エッセンシャルワークとしてのごみ収集 災害派遣での経験が予期せぬ事態に生きた—京都市	中川 純	59
自治研活動 レポート	2024 京都自治研集会～“つながり”で創ろう Well-being な地域社会～—京都府本部	増永浩子	64
	コミュニティ・オーガナイズングワークショップ体験記		
	組合活動に必要なコミュニケーションスキル	北川啓子	66
COJ報告	組織の力を最大限引き出すために コミュニティ・オーガナイズングから学ぶ リーダーシップの新境地	堀川結以	69
	次号予告・編集部から		72



『自治を担う「フォーラム」としての議会—政策実現のための質問・質疑』イマジン出版、一九八〇円
江藤俊昭 著
フォーラムとしての自治体議会における議員の「質問力」について考え始めたのは、土山希美枝「質問力で高める議員力・議会力」(中央文化社、二〇一九年)がきっかけだった。この度、議会の議論の場(フォーラム)における政策形成力に着目した「質問力」が著された(本書)。
理屈はこうである。首長・執行機関と議

会はより良い政策形成、改善、目標について共同の責任を持つ。賛否、翼賛、拒絶の表明を超えて、政策のための提案がなされるべきだ。だから「質問」と「質疑」は異なる。質疑の「疑」は疑義を質すという意味でチェックである。一方「質問」は、二つの要件を必要とする。一つは市民の政策形成サイクルに参加する質問権を代表し代理すること。もう一つは議員間討議からの改善提案である。
新しい流れ
理想論に聞こえるだろうか。本書には政策サイクルを意識した自治体議会の実例がたくさん収録されている。全体から見ればごく少数派かもしれないが、確かな流れが形成されつつあるようだ。
本書を読んでいたおかげで、このところの議会不祥事や首長との対立のニュースに少しだけ違う見方ができた。たとえば先の東京都知事選でも有名になった

安芸高田市。議会たよりにもとした報道が争点になっていた。本書でも議会広報のあり方が論点になっていたので、現物をのぞいてみた。当時の市長の主張は強引で根拠に乏しいように見える。
議会制度改革
最近だと、自治制度の問題は地方自治法の(改正)問題が気になる。二〇一七年の、監査制度、決算不認定の改正は大きな影響を与えたと思う。九月の決算議会を聞きながら本書を読み直してみた。一つは、決算委員会での「質問」はフォーラム形成とは別の理屈が必要なのではないかと感じた。もう一つは、フォーラム形成が難しい理由は、首長・議会の二元的(著者は「的」を入れる)代表制の機能不全ではなく、もともと決算不認定の効果も認めなかったような「超強首長制」のためなのではないか。
評者 菅原敏夫 本誌編集委員